

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

田中千代学園
学校関係者評価委員会

令和 6 年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告します。

1. 学校関係者評価委員

- ・松田 祐之 前・文化学園大学 教授
- ・大豆生田 守 桑沢デザイン研究所 監事
- ・北出 義博 ファッション産業関係者
- ・松木 茜 渋谷ファッション&アート専門学校 卒業生
- ・森下 利典 渋谷区町づくり検討委員、一般社団法人日本板画院 常務理事
- ・佐藤 知己 渋谷ファッション&アート専門学校 在校生保護者

2. 学校関係者評価委員会開催状況

第 1 回委員会 令和 6 年 11 月 8 日（金）13:30~15:00 本校会議室

第 2 回委員会 令和 7 年 1 月 24 日（金）13:30~15:00 本校会議室

第 3 回委員会 令和 7 年 3 月 14 日（金）13:30~15:00 本校会議室

3. 報告事項

令和 6 年度の渋谷ファッション&アート専門学校の事業計画における教育目標並びに重点目標について学内に設置された「自己評価委員会」において 10 項目の基準目標についての現状分析、課題と解決に向けた方向性をまとめて作成された「自己評価報告書」と令和 6 年度に実施した「学生アンケート結果」、及び令和 7 年度の入学応募状況について 3 回開催された学校関係者評価委員会において審議をして評価を行った。その結果を「令和 6 年度学校関係者評価報告書」としてまとめた。

報告書の結果内容については以下の通りである。

「自己評価報告書」

本報告書は、理事長、常務理事、校長、副校長及び教員と事務職員の一部で構成される「自己評価委員会」が令和 6 年度の教育目標と重点目標及び学校運営や活動に関する 10 項目の基準目標について自己点検・評価を年度内に 3 回開催し、その結果をまとめたものである。

・令和 6 年度重点目標

服飾専門課程～ファッション業界が社会や経済の急速な変化、価値観の多様化のなかで求められる人材は、専門技術・知識のみならず関連職種の技術・知識を幅広く身に付けている「多能職」が求められている。この現状を踏まえて、学生の学ぶ意欲や要望に応じて選択科目を増やし、学びの選択肢を広げるカリキュラムとする。具体的には、1 年前期にファッション業界で必要な最低限の技術と知識を必修科目として全員が学び、後期以降は将来やりたい職種をイメージして、どのような技術・知識を身につけたいか学生自身が考え、選択できる科目を大幅に増やした。2 年間の学修の成果を発表する卒業制作、卒業研究については、学生が自ら企画・制作をして教員のサポートを受けながら学生主体で発表会を開催する。

また、学外の専門家の講義・講演など学外交流を図る「ファッション関連講座」は今年度も継続実施する。

結果は、多能職の人材育成を目指した選択肢を広げたカリキュラム編成で、学生が将来やりたいことをイメージして授業科目を学生の意思で選択できることで学修意欲向上に資することができた。また、将来を見据えた卒業制作・研究に取り組むために 1 年生の段階から科目選択、就職の面接、指導も併せて行った。

昨年度に引き続き、学内外の人的交流や企業との活動体験を実施してコミュニケーション力や幅広い視野を身に付ける教育環境も整備された。

文化専門課程～課程設置から6年経ち、留学生を中心に学生数も着実に増加して本年度は定員充足率100%の120名の学生数を確保した。意識もレベルも高い学生が増えて教員のモチベーション向上にもつながり、この数年間は充実した授業が行われている。学科別、コース別のカリキュラムも完成されつつあり、学生個々のオリジナリティを認識しつつお互い切磋琢磨できる質の高い教育を目指す。

美術表現科、造形表現科と表現研究科の3つ特徴的な科で構成され、カリキュラムや教育指導も異なる部分もあるが、基礎から学ぶ共通授業を強化し学生個々の目標を大切にしながら着実にステップアップしながらカリキュラム作りと指導を行う。

美術表現科では4月から3か月間の各コース共通の基礎を学ぶ授業は教育効果も高く、学び直しのニーズ対応もできるので継続して実施する。造形表現科では、コース共通授業は1か月半に短縮し専門教育に充当する時間を増やす。これにより両科目の特徴が明確化され新入生の学科・コース選択がしやすくなった。表現研究科は、公募展やグループ展などへの発表を前提とした制作指導を行う。留学生は美術大学や大学院進学が目的であるため、目標達成できるような指導と環境づくりを行う。

結果、美術表現科では課題ごとの前提講義や資料を充実させてわかりやすい授業が行え、基礎授業も学生と教員の交流の場となった。造形表現科では専門教育に時間を充当した結果、学生の集中力が増し作品の仕上がりレベルが目に見えて向上した。表現研究科では高度なスキルアップの指導を行い、学生自身が積極的に応募し多数の入賞、入選者を輩出、学外での活躍が目立った。

また、文化専門課程の特徴として留学生比率が高いことがあり、これらの留学生は大学、大学院への進学を目指す学生が多く、目標達成に向けた効果的な指導により大学院博士後期課程に初の合格者はじめ有名美術大学への合格者数が着実に増えた。1月24日現在では大学院8名、大学編入4名、大学入学16名計28名で前年プラス9名である。

以上の教育目標、学修成果や学生支援の重点目標実現に向けての教育指導に加えて、学校運営や教育環境等々の10の基準項目についても現状の認識および課題と解決方法について討議し、取り組みを実施した。主要な取り組み事案は以下のとおりである。

基準2 学校運営については、私立学校法改正が令和6年度成立、8年度4月に施行となる。専門学校の役割が明確になり、職業実践教育を重点に、改正に沿って準備を進めていくこと。基準3 教育活動については、学生数も増えて多様な学生ニーズへの対応にむけた教職員のスキルアップ並びに入学時より、継続的なキャリ

ア教育の必要性が課題として捉えられた。

基準 5 学生支援については、多様な学生への日々学内での対応、退学者や休学者への対応、奨学金制度等学生支援体制の整備を充実させること。

基準 7 学生募集と受け入れについては、高校生の進路決定は年々早くなっており、募集活動内容も毎年見直しが必須である。本年度より留学生を主な対象に WEB 出願を導入し、手続きが改善されたがさらに検証をしてよりよい出願手続きを確立する。

以上が「自己評価委員会」の結果報告である。

このように教職員主要メンバーで構成される委員会で、学校全体の活動について自己評価を行い課題解決に活かしていくことは学校運営において大変重要で有意義であると判断する。

「学生アンケート結果に対する評価報告」

令和 6 年度の学生アンケートは質問に対して 4 段階評価方式で実施した。

服飾専門課程では授業全体についての 9 項目の質問と入学動機や学校生活などについて 7 項目の質問を実施した。

文化専門課程では今年度の授業についての 8 項目の質問と校内環境・学校行事について 7 項目の質問を実施した。

・服飾課程アンケート結果について

1 年生の結果は、授業全体についてのシラバスの内容、目標の提示、教材や課題への取り組み等、概ね前向きに取り組んでいると受け取れる結果が読み取れる。

一方、2 年生については、授業全体について「ややそう思う」の回答が多く、一部の質問では評価が分かれた。自分のやりたいことがまだ見えていない学生がいるように見受けられる。学生に対する教員の指導・フォローアップが求められる。

学校生活については、1 年生・2 年生とも満足度は高い評価である。

就職に関しては、気にしている回答は多いが、意識も低く具体的なイメージが描けていない学生が多い。将来の進路に影響する選択科目の選定についても教員の面談指導やキャリア教育の充実が求められる。

・文化専門課程アンケート結果

文化課程コースでは、絵画・日本画・彫刻・版画の 4 つのコース別に学生アンケートを実施した。授業内容の評価についてはすべてのコースで概ね満足度の高い評価が出ている。ただ、彫刻コースではシラバスや教材について評価が分かれているので今後の対応が望まれる。校内環境や学校行事については満足度の高い評価結果で

ある。文化課程コースでは各質問項目の評価理由についてのフリーアンサーを列記している。学生から直接の意見をくみ取れる方法で、それぞれの項目の内容改善につながるよう期待したい。

学生アンケートは、学校運営において学生からの意見・ニーズの収集に重要なツールである。今後もより精度を高めていくことを期待したい。

また、服飾課程と文化課程では教育内容の違いはあるが、質問項目の調整は今後の検討課題であると認識される。

「これからの本校の在り方と学生確保に向けた対策」

理事長より、18歳人口が減少し続けるなか、服飾関連学校の現状は大変厳しい。全国、都内でも専門学校が減少しているとの報告を受けた。

かかる状況を踏まえて、本校では服飾専門課程と文化専門課程に加えて、新たに「建築クリエイター科」を創設することが発表された。認可がずれ込み令和7年度の募集活動が遅れたが進めていきますとのことである。

新課程が加わることで、「ファッション」・「アート」・「建築」という、いずれにも共通するクリエイション（創造性）をキーワードに3つの柱とする学校運営の方向性が見えてきた。

本校は6年前に文化専門課程を導入し、この数年の本校の生徒数は、服飾専門課程では減少傾向にあるが、文化専門課程では留学生数の増加もあり着実に増加傾向にある。6年度では定員数120名に対して充足率100%であり、かつレベルの高い学生獲得ができているという好循環が回りつつある。

令和7年度入学者の応募状況は、2025年3月14日の学校評価委員会の席上、校長より3月時点の状況報告として以下の報告を受けた。

服飾課程は、20名。文化課程は応募数250数名、建築クリエイター課程は6名プラス&である。文化課程においては、中国からの留学生の増加が顕著であり、これは在留資格取得や進学指導が評価されたことであり、本学の学生確保の上での強みともいえる。減少傾向にある服飾専門課程においては、学生アンケート結果から読み取れる本学の特徴や良さを更にレベルアップを図り、対外的に継続して本学の情報発信をおこない学生確保につなげる施策の取り組みが課題である。

なお、最終的な令和7年度の入学者数は、服飾課程定員25名に対して入学者21名、文化課程定員120名に対して入学者120名、建築課程定員40名に対して14名で全体では定員数185名に対して入学者数155名、充足率83.8%であり、3月時点より学生数は増加して学校運営の基盤の充実は進捗している。

以上

